

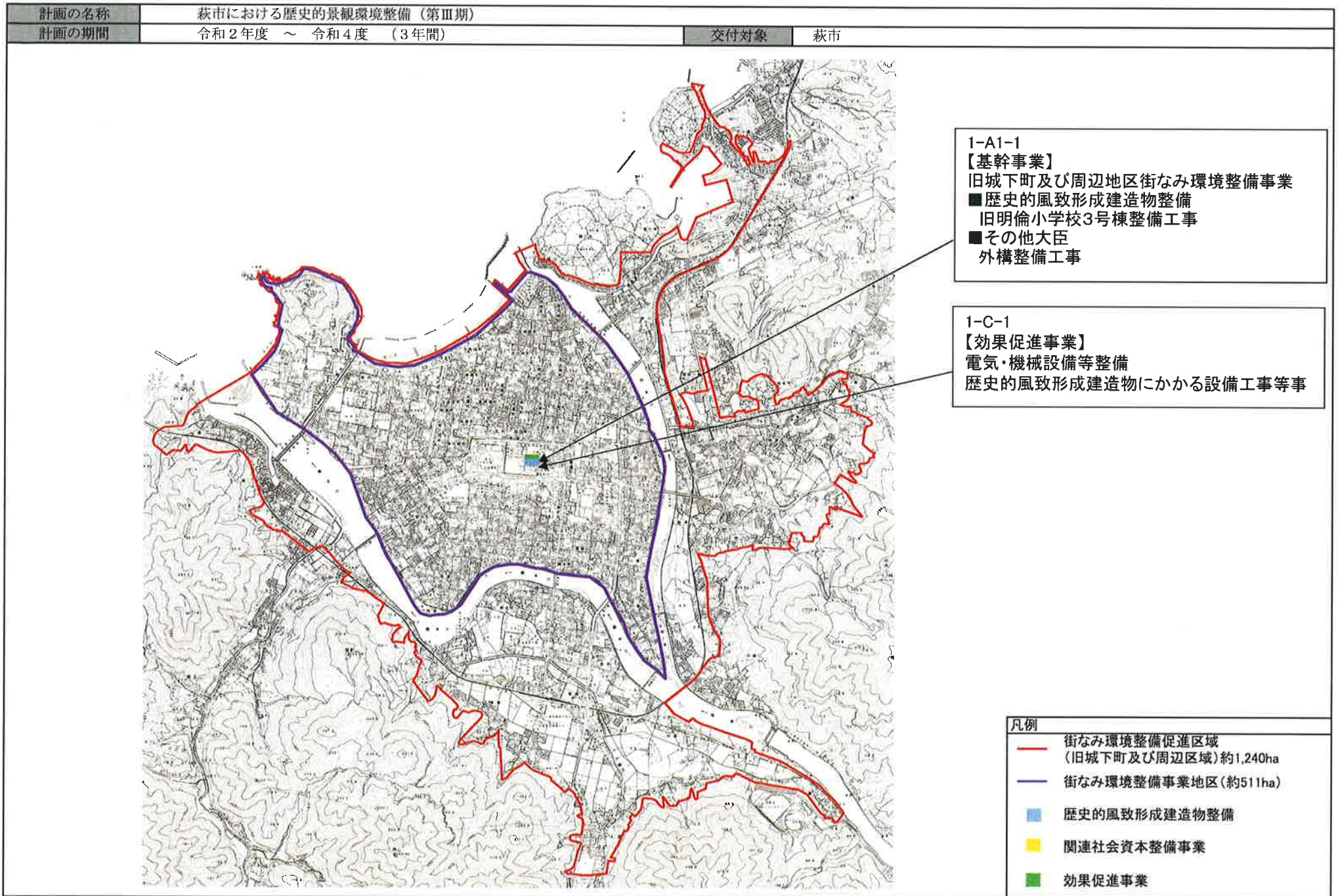
社会資本総合整備計画(社会資本整備総合交付金事業(住環境整備事業))

はぎし  
萩市における<sup>れきしてき</sup>歴史的<sup>けいかん</sup>景観<sup>かんきょう</sup>環境<sup>せいび</sup>整備(第<sup>だい</sup>Ⅲ<sup>き</sup>期)

はぎし  
萩市

令和4年4月

(図面) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金事業 (住環境整備事業))



(参考様式2) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金事業 (住環境整備事業))

令和4年4月1日

計画の名称	萩市における歴史的景観環境整備 (第Ⅲ期)							重点配分対象の該当	○									
計画の期間	令和2年度 ~ 令和4年度 (3年間)		交付対象	萩市														
計画の目標	歴史的風致形成建造物の整備を行うことで、地域固有の魅力あるまちづくりを推進するとともに、立地適正化計画における産業交流支援拠点 (誘導施設) として活用することにより、起業・創案件数の増加を推進し、都市機能誘導区域内における誘導施設の集積率向上を図る。																	
計画の成果目標 (定量的指標)	歴史的風致形成建造物の外観、耐震化整備により、一般公開を行い、観光客数の増加を目指す。 歴史的風致形成建造物の整備、活用により起業・創案件数の増加を目指す。 地域固有の魅力あるまちづくりを行うことによる他地域からの定住者数の増加を目指す。																	
定量的指標の定義及び算定式						定量的指標の現況値及び目標値			備考									
						当初現況値 (R2当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)										
萩地域の観光客数から算出する。 萩地域の観光客数を、平成30年実績人数から10%増加を目標とする。						100.0%		110.0%										
萩地域の起業・創案件数から算出する。 萩地域の起業・創案件数を、平成30年度実績人数から5%増加を目標とする。						100.0%		105.0%										
定住対策支援による空き家バンク等を利用して他地域から定住した人数から算出 平成26~30年度現在における平均定住者数の5%増加を目標とする。						100.0%		105.0%										
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	367百万円	A	363百万円	B	0百万円	C	4百万円	D	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	1.1%							
<b>交付対象事業</b>																		
<b>A 基幹事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考	
									R2	R3	R4	R5	R6					
1-A1-1	住宅	一般	萩市	直接	市	旧城下町及び周辺地区街なみ環境整備事業	歴史的風致形成建造物整備 (1件)	萩市							363			
									合計					363				
<b>B 関連社会資本整備事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
										R2	R3	R4	R5	R6				
									合計					0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考						
1-B1-1																		
<b>C 効果促進事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
										R2	R3	R4	R5	R6				
1-C-1	設備整備等	一般	萩市	直接	市	設備整備等	電気・機械設備等整備事業	歴史的風致形成建造物にかかる設備工事等	萩市						4			
									合計					4				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考						
1-C-1	基幹事業(1-A1-1)と一体となって、歴史的風致形成建造物を観光の起点、賑わいの場として有効に活用するため必要な設備の整備を行う。																	
<b>D 社会資本整備円滑化地籍整備事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考			
									R2	R3	R4	R5	R6					
									合計									
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考						

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	R2	R3	R4		
配分額 (a)	86	24			
計画別流用 増△減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	86	24			
前年度からの繰越額 (d)	0	17			
支払済額 (e)	69	36			
翌年度繰越額 (f)	17	0			
うち未契約繰越額 (g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	5	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	12.2%	#DIV/0!		
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	-	-	-		

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

＜指標＞ 萩地域(旧萩市)への観光客数

＜指標の対象＞

萩地域(旧萩市)

＜指標選択の理由＞

旧明倫小学校校舎群については市街地の主要観光施設の中心部にあるという立地条件から、本館・2号棟は平成29年より萩の観光起点施設「萩・明倫学舎」として活用しており、この度、同じく歴史的風致形成建造物である3号棟について外観整備及び耐震化の整備を行うことで一般公開を行い、観光客の増加が期待できる。

＜指標の目標設定＞

事業開始前の平成30年実績と令和5年の増減率を比較し、10%増加を目標とする。

＜目標設定の考え方＞

当市の観光客数は、山陽新幹線が博多まで開通した昭和50年をピークに減少に転じている。近年では萩が舞台の大河ドラマの放送や世界文化遺産登録が決定した平成27年の約200万人をピークに年々減少しており、今後も減少傾向が続くことが想定される。

しかしながら、本事業の実施により、歴史的景観を守ること、藩校明倫館跡地内の周遊観光が可能となり、萩まちじゅう博物館構想の一層の推進により、観光客の満足度の向上、減少に歯止めをかけ、更には上昇に転じることを目指し目標として設定した。

《近年の観光客数》

(単位:人)

年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
観光客数	2,002,448	1,374,895	1,420,870	1,355,996

＜指標＞ 萩地域(旧萩市)の起業・創業件数

＜指標の対象＞

萩地域(旧萩市)

＜指標選択の理由＞

歴史的に人材育成や賑わいの場としての物語のある建物で、新たな産業の創出や起業支援、IT 人材の育成、市民や企業との交流拠点を整備するなど、都市機能誘導区域内での雇用の場の創出や起業・創業、産業人材育成の支援に取り組むため。

＜指標の目標設定＞

事業開始前の平成 30 年度実績と令和 5 年度の増減率を比較し、5%増加を目標とする。

＜目標設定の考え方＞

令和元年度中に策定予定である萩市立地適正化計画の都市機能誘導区域の「産業交流支援拠点」として当建物を整備・活用することにより、起業・創業の支援に繋がると見込まれるため。

＜立地適正化計画との整合性＞

人口の定住化や若い世代の流出を抑制するには、働く場の確保が必要であり、地場産業の再生や新たな産業の創出等、地域産業振興に関する施策と連携した都市空間の掲載を図り、都市の活力を向上させる必要がある。

当建物は都市機能誘導区域内にあり、産業交流支援拠点施設として整備することにより、新たな産業や雇用の場を創出し、起業・創業・産業人材育成の支援に取り組むことで、都市機能誘導区域内における集積率を高める。

【萩市立地適正化計画】R2.3 策定

P.56 誘導施設の設定、P.68 誘導区域の設定、P.70 誘導施策の方針、P.81 目標値の設定

＜指標＞定住対策支援による空き家バンク等を利用して他地域から定住した人数

＜算定式の根拠＞

萩市においては、平成 18 年度より空き家情報をホームページにおいて提供し、また、民間の不動産会社等と情報提供して、他地域からの定住政策を行っている。

平成 26 年度から平成 30 年度の過去5年間における、この制度を利用した他地域からの定住者数の総数は102世帯199人であり、平均数は20.4世帯39.8人である。萩市においては、本事業の実施による萩市固有の歴史的景観を活かしたまちづくりを進めることにより、今後5年間の他地域からの定住者平均数の5%増加を目指すことを目標とする。

＜立地適正化計画との整合性＞

人口の定住化や当地域への移住の促進、若い世代の流出を抑制するには、働く場の確保が必要であると同時に市内外の方が集い、地域とふれあい、交流する空間が必要である。

当建物を産業交流支援拠点施設として整備することにより賑わいの創出を図り、若い世代のビジネスマインドの醸成や、社会人の学び直しの機会をつくるとともに、求人企業と就職希望者のマッチングを図ることで居住誘導区域内への移住・定住の促進につなげる。

【萩市立地適正化計画】R2.3 策定予定

P.68 誘導区域の設定、P.70・71 誘導施策の方針、P.81 目標値の設定

## 社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称：萩市における歴史的景観環境整備(第Ⅱ期)

地方公共団体名：萩市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性	○
②地域の課題への対応(地域の課題と整備計画の目標の整合性)	○
II. 計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量的指標の整合性	○
②定量的指標の明瞭性	○
③目標と事業内容の整合性	○
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成等を踏まえた事業実施の確実性)	○
②地元の機運(住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)	○



街なみ環境整備方針説明書

都道府県名	山口県	市町村名	萩市	区域名	旧城下町及び周辺地区
区域現況	区域の概況	<p>本区域は毛利藩政期260年間に形成された城下町のたゞまいや町割りなどが今日まで継承されており、歴史的に価値の高い建造物が集中的に存在している。しかし、近年老朽化等により急速に歴史的な風情やたゞまいが失われている現状である。また、本区域内は現在の萩市の中心市街地とほぼ重なり、萩市立地適正化計画における「都市機能誘導区域」「居住誘導区域」が含まれているが、区域内における人口は年々減少している。</p>			
	道路の現況	<p>城下町地区の街路は、御成道の一部をなす呉服町の通りを中心とした東西方向の通りを基軸に基盤の目状に配され、通りの両側に各町が形成され、現在でも大半がそのままの幅員で市街地の街路として継承されている。幅員は狭いが、周辺幹線道路に通じており、市民の日常的な交通路として、観光客の主要観光ルートとして利用されるため、通行量が多い状況である。</p>			
	公園等の現況	<p>国指定史跡「萩城跡」内のある「指月公園」、旧城下町の近くに位置する「中央公園」、幕末維新に関連する国指定史跡「松下村塾」等がある松陰神社の近くに位置する「陶芸の村公園」や他に11箇所街区公園がある。また、平成22年に「唐樋札場跡公園」が歴史的環境形成総合支援事業で整備を完了した。</p>			
	地区住民のまちづくり活動の概要	<p>萩市のまちづくりの基軸である「萩まちじゅう博物館」を推進する市民団体である「INPOまちじゅう博物館」を中心として、浜崎重要伝統的建造物群保存地区の保存活用を行っている「浜崎しつちよる会」や、市内文化財施設の管理やガイド等を行っている「INPO萩観光ガイド協会」が、魅力あるまちづくりに努めている。その他にも、地域が持つ歴史的特性をまちづくりに活かそうとする市民活動が活発に行われている。</p>			
整備の目標	<p>歴史的風致形成建造物やその周辺環境の修景を行うことで、歴史的景観の保存や住環境の向上を図り、また、都市機能誘導区域内において誘導施設「産業交流支援拠点」として整備活用することで新たな産業を創出し、区域内における誘導施設の集積率を向上させる。</p>				
整備の時期	<p>令和2年度～令和4年度の3年間</p>				
地区施設等の整備に関する基本事項	通路等	歴史的町並みが残る区域では、歴史的・文化的価値に配慮しつつ周辺環境との調和した道路景観の整備を検討する。また、市民及び観光客のため、安心安全な交通路を確保し、回遊性の向上を図る環境整備を検討する。	<p>萩の歴史的遺産と調和した景観形成に努めるとともに、市街地における良好な都市環境に資する公園の整備を検討する。</p>		
		小公園等	<p>歴史的建造物の周辺地域については、都市計画法、萩市景観条例、萩市屋外広告物等に関する条例に基づき、これらと調和した環境、景観の規制及び誘導を行う。</p>		
		その他	<p>萩市景観条例に基づき、萩市景観計画の景観形成基準により、規制、誘導を図る。歴史的建造物等については、歴史的景観に調和したものとす整備を図る。</p>		
住宅等の整備に関する基本事項	住宅・敷地	<p>夏みかんの植栽など歴史的景観と調和した植栽を行い、緑豊かな住環境の整備を図る。</p>			
	その他の事項	<p>区域の整備に関する基本計画</p>			

【整備方針図】

地区名

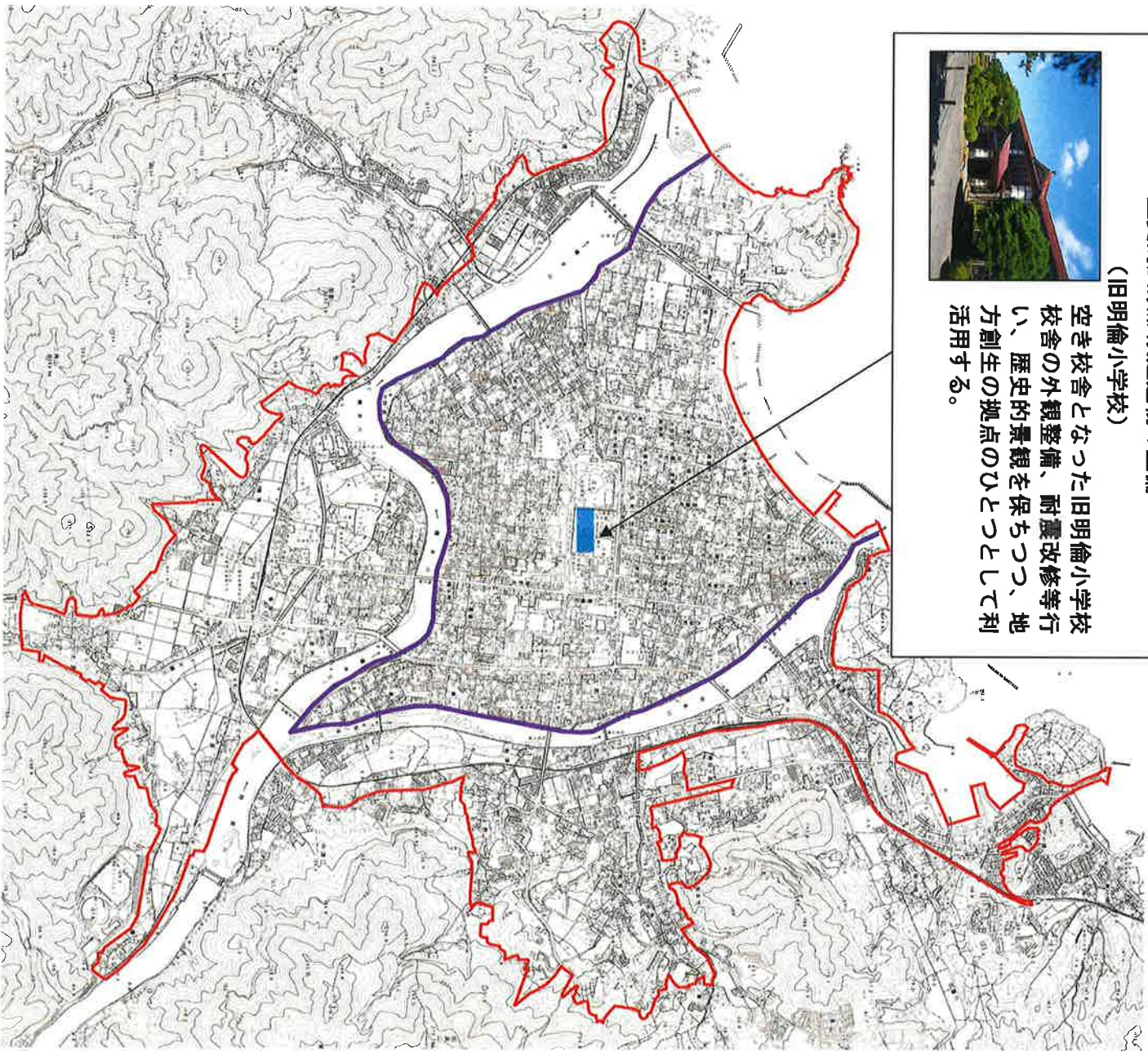
旧城下町及び周辺区域

歴史的風致形成建造物の整備

(旧明倫小学校)



空き校舎となった旧明倫小学校校舎の外観整備、耐震改修等を行い、歴史的景観を保ちつつ、地方創生の拠点のひとつとして活用する。



non-scale

— 街なみ環境整備促進区域

(旧城下町及び周辺区域) 約 1,240ha



■ 歴史的風致形成建造物整備

— 街なみ環境整備促進区域事業地区

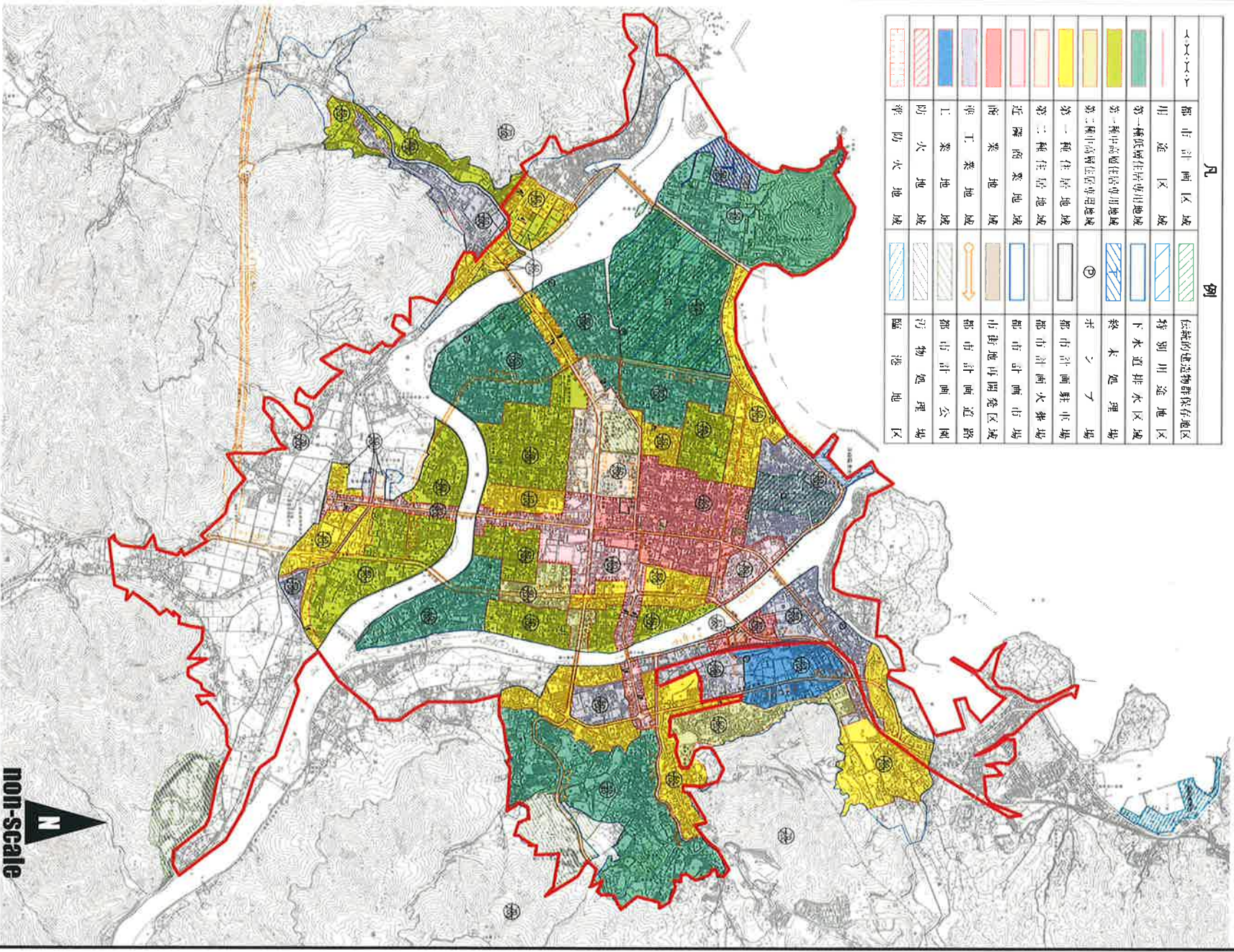
(約 511 ha)

【位置図・区域図】

地区名

旧城下町及び周辺区域

凡	例
都市計画区域	伝統的建造物群保存地区
用途区域	特別用途地区
第一種低層住居専用地域	下水道排水区域
第一種中高層住居専用地域	終末処理場
第二種中高層住居専用地域	① 干シ場
第一種住居地域	都市計画駐車場
第二種住居地域	都市計画大衆市場
近隣商業地域	都市計画市場
商業地域	市街地再開発区域
準工業地域	都市計画道路
工業地域	都市計画公園
防火地域	都市計画地区
準防火地域	臨海地区



— 街なみ環境整備促進区域  
(旧城下町及び周辺区域) 約 1,240ha